



平成28年3月9日

福岡市市政記者各位

【3市同時発表】

福岡市・北九州市・久留米市

自治体連携によるオープンデータ推進の取り組みをスタートします

1. 概要

近年、国や自治体が所有する公共データの活用推進、すなわち「オープンデータ」の推進により、行政の透明性・信頼性の向上、官民協働の推進、経済の活性化・行政の効率化の実現が期待されています。

平成27年6月から、福岡市、福岡県、北九州市、久留米市は、BODIK自治体WG(※別紙1参照)において、効果的・効率的なオープンデータ推進に関する検討を進めてきました。

その取り組みの一環として、既にオープンデータに取り組んでいる北九州市、福岡市、久留米市の3市は、共通フォーマットによるオープンデータの公開やオープンデータサイトの共同利用など、自治体連携によるオープンデータ推進を行うことにいたしました。

2. 取り組み内容

(1) 共通フォーマットによるオープンデータを公開します。

連携利用しやすいデータ公開のため、共通フォーマットによるデータを公開します。

第1弾として「施設情報」・「避難所情報」・「保育所情報」を公開します。

※共通フォーマットは順次追加していきます。

(2) オープンデータサイトの共同利用を推進します。

利便性向上のため、各都市が公開するデータを集約するとともに、システムの運用コストの低減を図るため、オープンデータサイトの共同利用を推進します。

(3) データを説明する記述に関するルールの共通化を行います。

検索しやすく連携しやすいオープンデータ作成のため、データ分類や検索用タグなど、共通したルールでデータを作成します。

(4) その他、共同化・共通化を進め、連携自治体の拡大にも取り組みます。

共同でのイベント実施やノウハウの共有など、共同化・共通化の検討をさらに進めるとともに、他の自治体へも連携を展開し、広域でのオープンデータの推進を図ります。

【問い合わせ先】

福岡市 総務企画局 ICT戦略室 ICT戦略課

電話 092-711-4105(内 1302)

北九州市 総務企画局情報政策部情報政策課

電話 093-582-2144

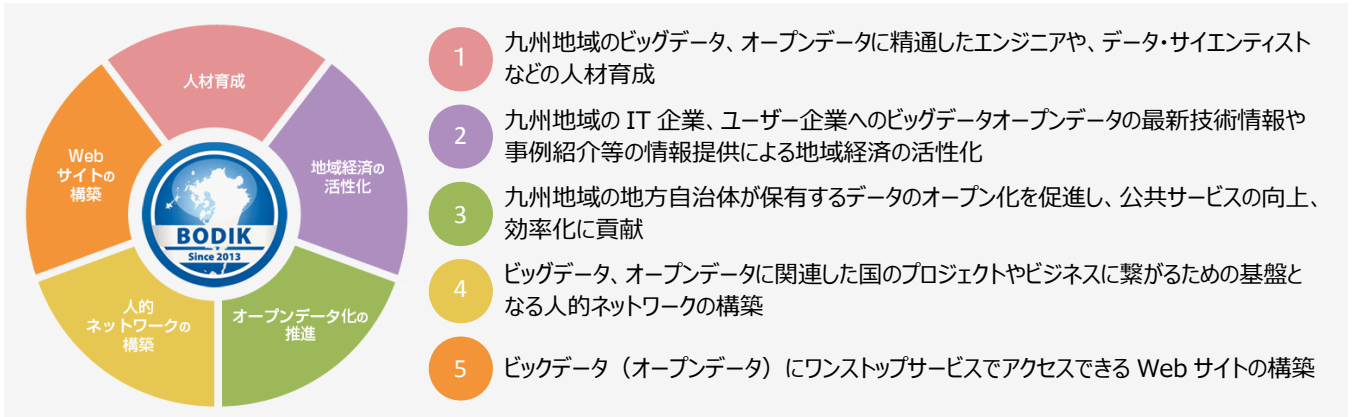
久留米市 総務部情報政策課

電話 0942-30-9060



ビッグデータ&オープンデータ研究会 in 九州

ビッグデータ&オープンデータ研究会 in 九州（BODIK）は、福岡市・福岡アジア都市研究所(URC)・九州先端科学技術研究所(ISIT)が 2013 年 4 月に立ち上げた研究会で、以下の 5 つをミッションとして活動しています。



○「オープンデータ化推進」の取組

オープンデータは行政が持っているデータを 2 次利用可能なライセンスで公開することで、行政の効率化、地域の課題解決、地域経済の活性化につなげていく世界的な取り組みです。欧米が先行して取り組んでいます。2013 年 G8 サミットでのオープンデータ憲章の合意を受け、日本でも国のオープンデータサイト（DATA.GO.JP）が公開され、先進的な地方自治体が積極的にオープンデータに取り組んでいます。

人口・税収が減少しても枯渇しない資源としてオープンデータは有効利用が期待されており、欧米ではオープンデータを利用して地域の課題解決を行う NPO の活躍や、オープンデータを活用したベンチャー企業が成功するなど、活用事例が多く見られるようになってきました。しかしながら、日本ではまだデータが出揃っていない事もあり、まだそのような状況には至っていません。九州地域でもオープンデータに取り組んでいる地方自治体はまだ多くはありません。BODIK では地方自治体がオープンデータに取り組むための支援、そして九州地域のすべての地方自治体のオープンデータを集め、オープンデータの利活用を促進する社会基盤の構築を目的として以下の 3 つを中心に活動しています。

1. BODIK 自治体 WG

BODIK では、オープンデータ化推進の課題を解決するための資料、技術、ノウハウを共有し、オープンデータに取り組む自治体を増やすことで、地域の課題解決の促進、経済の活性化に貢献するために、WG を立ち上げ活動しています。本 WG では、情報共有だけでなく、新たな自治体がオープンデータに取り組むための参考になる、オープンデータ・スタートパッケージ（指針、利用規約、データカタログサイトなど）を作成中です。また、オープンデータを公開するためのデータカタログサイトの共同利用にも取り組んでいます。

平成 28 年 3 月時点のメンバーは福岡県、福岡市、北九州市、久留米市の 4 自治体となっています。平成 28 年 4 月には、九州・山口地域の他の自治体の参加を募りながら、活動の幅を広げていく予定です。

2. BODIK ODCS <http://odcs.bodik.jp/>

BODIK ODCS は、公益財団法人九州先端科学技術研究所が運営する、九州・山口地域の地方自治体がオープンデータを公開するためのデータカタログサイトを無償で提供するクラウドサービスです。BODIK ODCS を利用することで、自治体で独自のオープンデータカタログサイトを持つことが可能になります。平成 28 年 3 月から申込み開始予定です。

3. BODIC.org <http://www.bodic.org/>

BODIK では BODIK ODCS で集めたデータを LOD（オープンデータでは 5 つ星と呼ばれる一番良いとされているデータ・フォーマット）に変換して、BODIC.org というサービスで提供します。BODIC.org では、行政のデータだけでなく、オープンサイエンスのための大学や研究機関のデータ、企業が持っているデータなども登録できるプラットフォームとなっています。このプラットフォームを利用して、データの利活用を促進することで、地域の課題解決だけでなく、データを活用したベンチャーの創出など、地域経済の活性化も目指しています。

【問い合わせ】

ビッグデータ&オープンデータ研究会 in 九州

事務局：公益財団法人九州先端科学技術研究所 担当：坂本まで
e-mail : info@bodik.jp Web : <http://www.bodik.jp/>

「自治体オープンデータサイト」を開設します！

～北九州市との連携を開始～

福岡市では、平成 26 年 10 月に福岡市オープンデータサイトを公開し、オープンデータの提供を行ってまいりましたが、本日、ひとつのサイトから福岡市と他自治体のオープンデータをまとめて提供する「自治体オープンデータサイト」としてリニューアルします。

第一弾として、本日より公開される北九州市のオープンデータカタログサイトと連携いたします。

オープンデータを活用したアプリなど、みなさまの暮らしやビジネスに役立つ多くの活用事例が生まれますよう、ぜひご活用ください。

- 1 サイト名 自治体オープンデータサイト
(URL) <http://www.open-governmentdata.org/>
- 2 特徴とメリット
 - (1) 福岡市発の共同オープンデータサイト
 - ・福岡市が提供するオープンデータサイトの機能を共同利用することで、福岡市と北九州市のデータを、ひとつのサイトから入手できます。
 - ・福岡市と北九州市のアプリなどの活用事例を、まとめて参照できます。
 - (2) データの標準化・広域化を加速
 - ・ひとつのサイトから複数自治体のデータを提供する取り組みを加速していきます。
 - ・データファイルの形式や分類方法の標準化に取り組んでいきます。
 - (3) さらなる規模拡大によるコスト削減と機能充実
 - ・福岡市が提供するシステムを共同利用することにより、これからオープンデータサイトを開設する自治体の開発コストと運用コストを削減するとともに、参加する全ての自治体が充実した機能を利用できます。
- 3 各自治体のオープンデータサイト URL
【福岡市】 <http://www.open-governmentdata.org/fukuoka-city/>
【北九州市】 <http://www.open-governmentdata.org/kitakyushu-city/>

【問い合わせ先】

福岡市 総務企画局 ICT 戦略室 ICT 戦略課 電話 092-711-4105(内 1302)

サイトの連携イメージ

福岡市オープンデータサイト 【H26.10開設】



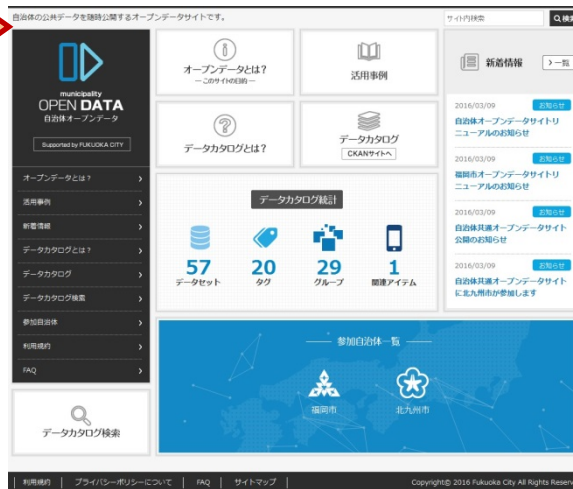
北九州市カタログサイト 【今回リリース】



同一サーバ（共同利用）



自治体オープンデータサイト 【今回リリース】



今後は他自治体との
連携・共同利用を拡大